

佐賀県の肝疾患診療連携の現状調査およびその向上に関する研究

研究分担者：江口 有一郎 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター 特任教授

研究要旨：【背景】肝がんの撲滅のためには、かかりつけ医と肝疾患専門医療機関が連携して肝炎患者を適切な抗ウイルス治療につなげることが重要である。本研究では、佐賀県における肝炎患者の病診連携をさらに向上させるべく、現在の状況についてアンケート調査を行った。【方法】佐賀県医療機関情報・救急医療情報「99さがネット」に掲載されている全医療機関785箇所のうち、実際に診療が実施されている670箇所に対し質問用紙を一斉に郵送し、FAXで回答を得た。未回答の医療機関に対しては同じ方法で再依頼を2回行った。質問項目は2019年8月1日時点での①専門の診療科、肝炎患者の②通院状況および③肝疾患専門医療機関への紹介状況、④紹介しない理由、等から構成した。【結果】回答数を上げるためにこれまで初回依頼と督促2回の合計3回も行い、2020年1月17日時点で565箇所(84.3%)から回答を得た。専門診療科は肝臓内科35箇所(6.6%)、消化器内科63箇所(11.9%)。内科系診療科は273箇所(51.4%)であった。「肝炎患者が通院している」と回答した医療機関はB型肝炎で327箇所(57.9%)、C型肝炎で353箇所(62.5%)であった。肝炎患者を専門医療機関に「必ず紹介する」272箇所(48.1%)、「場合によって紹介する(場合によって紹介しない)」249箇所(44.1%)、「紹介しない」29箇所(5.1%)であった。紹介しない場合の理由の内訳は「患者が紹介を断る」が116箇所、「自院で対応できる」が39箇所、「治療が不要と思う」が18箇所、「紹介先がわからない」が8箇所であった。患者が紹介を断る理由は、「高齢」が39箇所(33.6%)で最も多かった。「病気の理解がない」10箇所、「自覚症状がない」9箇所、「忙しい・時間がない」9箇所、「IFNの悪いイメージ」8箇所、「経済的理由」8箇所の回答があった。【結語】佐賀県では肝臓内科を標榜しない多くの医療機関にもウイルス性肝炎患者が通院していた。患者が紹介を断る理由からは、新しい治療法や医療費助成制度に関する知識や、紹介できる医療機関等に関する情報が不足しているために、専門医への紹介および適切な抗ウイルス治療に進んでいない患者が未だに存在することが推測された。県医師会や関係機関と連携して、今後さらにかかりつけ医へ情報発信を行なう必要がある。

A. 研究目的

ウイルス性肝疾患の診療は近年著しく進歩しており、特にC型肝炎では非代償性肝硬変や前治療で治癒しなかった患者にも有効な治療法が登場した。肝がんの撲滅のためには、かかりつけ医と肝疾患専門医療機関が連携して肝炎患者を適切な抗ウイルス治療につなげることが重要である。本研究では、佐賀県における肝炎患者の病診連携をさらに向上させるべく、現在の状況についてアンケート調査を行った。

B. 研究方法

佐賀県医療機関情報・救急医療情報「99さがネット」に掲載されている全医療機関785箇所のうち、実際に診療が実施されている670箇所に対し質問用紙を一斉に郵送し、FAXで回答を得た。未回答の医療機関に対しては「回答を頂けるまで何度も再依頼を実施します」「まだ返送いただけない医療機関にのみお送りしています」と行動経済学的手法も応用したコメントを依頼状に付しており、最終的には依頼を3回行った。

(スケジュール)

アンケート配布	8月9日
アンケート回収期限	9月20日
再依頼回収期限	10月15日
再来依頼回収期限	1月17日

質問用紙は研究代表者らが作成し、石川県で実施した形式を使用した（別添1）。主な質問項目は2019年8月1日時点での①専門の診療科、肝炎患者の②通院状況および③肝疾患専門医療機関への紹介状況、④紹介しない理由、等から構成した。

C. 研究結果

最終的には2020年1月17日時点で565箇所（84.3%）から回答を得た。

1回目回収期限：385（57.5%）

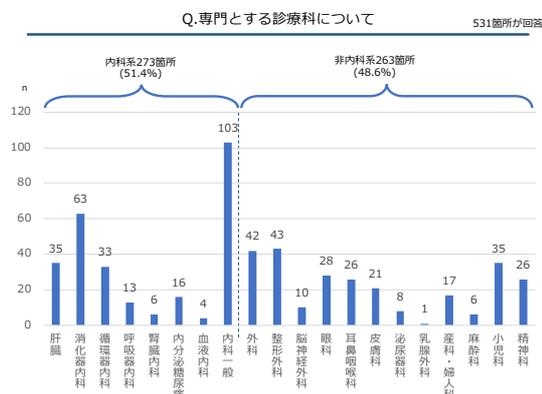
2回目回収期限：513（76.6%）

3回目回収期限：565（84.3%）

1) 専門の診療科は？（図1）

専門診療科は肝臓内科35箇所（6.6%）、消化器内科63箇所（11.9%）。内科系診療科は273箇所（51.4%）であった。

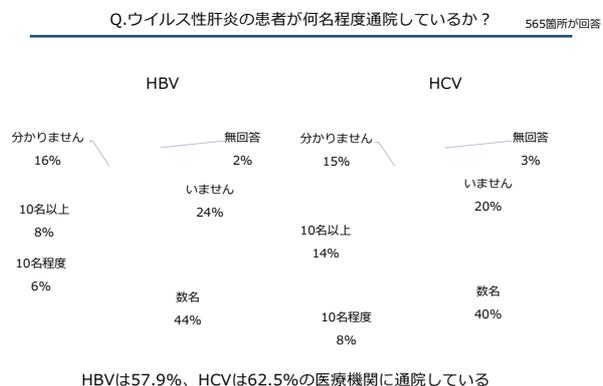
図1



2) ウイルス性肝炎患者が何名通院しているか？（図2）

「肝炎患者が通院している」と回答した医療機関はB型肝炎で327箇所（57.9%）、C型肝炎で353箇所（62.5%）であった。

図2



HBVは57.9%、HCVは62.5%の医療機関に通院している

3) ウイルス性肝炎患者を専門医療機関へ紹介するか？（図3）

肝炎患者を専門医療機関に「必ず紹介する」272箇所(48.1%)、「場合によって紹介する（場合によって紹介しない）」249箇所(44.1%)、「紹介しない」29箇所(5.1%)であった。

図3

Q. ウイルス性肝炎の患者を専門医療機関へ紹介しますか？ 565箇所が回答

回答内容	N	%
必ず紹介します	272	48.1
症状や場合によって紹介します 紹介しません	249	44.1
29	5.1	
患者がいません	4	0.7
無効回答	11	1.9

4) ウイルス性肝炎の患者を専門医療機関へ紹介しない理由は？（図4、5）

紹介しない場合の理由の内訳は「患者が紹介を断る」が116箇所、「自院で対応できる」が39箇所、「治療が不要と思う」が18箇所、「紹介先がわからない」が8箇所であった。

患者が紹介を断る理由は、「高齢」が39箇所(33.6%)で最も多かった。「病気の理解がない」10箇所、「自覚症状がない」9箇所、「忙しい・時間がない」9箇所、「副作用等のIFNの悪いイメージ」8箇所、「経済的理由」8箇所の回答があった。

図4

Q. ウイルス性肝炎の患者を専門医療機関へ紹介しない理由は？（複数回答可能）

565箇所が回答

回答内容	N	%
患者が紹介を断る	116	20.5
紹介先が分からない	8	1.4
自院で対応できる	39	6.9
今まで紹介しなかった	7	1.2
説明や紹介状を書く時間が無い	2	0.4
治らないと思う	2	0.4
治療が不要と思う	18	3.2
肝臓治療で充分と思う	7	1.2
その他	100	17.7

図5

Q. 患者が紹介を断る理由は？（複数回答可能）

116箇所が回答

回答内容	n	%
高齢	39	33.6
病気の理解なし	10	16.3
通院手段がない	10	11.3
自覚症状がない	9	7.8
忙しい、時間がない	9	7.8
副作用が怖い	8	6.9
家族の理解がない	8	6.9
経済的な問題	8	6.9
他の病院に行きたくない	3	2.6
面倒	4	3.4
肝機能検査が正常	2	1.7
プライバシーの問題	1	0.9

5) 抗ウイルス治療をしても予後に影響しないので紹介は不要と考えるのは？（図6）

「肝機能正常」が53箇所（9.4%）、「高齢者」が130箇所（23.0%）、「施設入所中」が47箇所（8.3%）、「認知症」が120箇所（21.2%）、「癌などの悪性疾患の合併」が127箇所（22.5%）であった。

図6

Q. 抗ウイルス治療をしても予後に影響しないので紹介は不要と考えるのは？

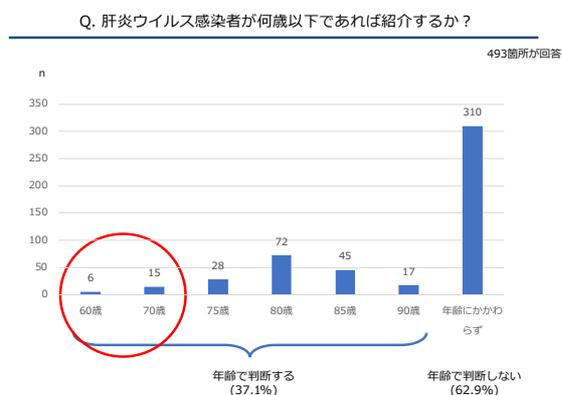
565箇所が回答
(複数回答可能)

回答内容	n	%
肝機能正常	53	9.4
高齢者	130	23.0
施設入所中	47	8.3
認知症	120	21.2
アルコール依存症	26	4.6
難治性疾患の合併 (呼吸器・心疾患・悪性疾患等)	127	22.5

6) 肝炎ウイルス感染者が何歳以下であれば紹介するか？（図7）

「年齢にかかわらず紹介する」が310箇所（62.9%）と半数を超えた。「年齢で判断する」が183箇所（37.1%）であり、「80歳まで」が72箇所、「85歳まで」が45箇所と多かったが、なかには「60歳まで」と回答する施設も存在した（6施設）。

図7



D. 考察

佐賀県では肝臓内科を標榜しない多くの医療機関にもウイルス性肝炎患者が通院していた。患者が紹介を断る理由からは、新しい治療法や医療費助成制度に関する知識や、紹介できる医療機関等に関する情報が不足しているために、専門医への紹介および適切な抗ウイルス治療に進んでいない患者が未だに存在することが推測された。また肝がん死亡率が長年全国的に極めて高い佐賀県でも肝がん対策に直接的に関係し、県医師会の協力も得て実施する全県調査に協力的ではない医療機関もあり、事態の重要性を訴える意味でも返信があるまで、分担研究者名で再三の返送の協力依頼を行うこととしている。県医師会や関係機関と連携して、今後さらにかかりつけ医へ情報発信を行なう必要がある。

E. 結論

佐賀県のウイルス性肝炎の患者における病診連携の現状調査を行った。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし (2020年4月に開催される消化器病学会総会で発表予定)

G. 知的所有権の出願・取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特になし

各設問に対し、該当する回答に○や()内への記入をお願いいたします。

Q1.先生のご施設は、無料肝炎ウイルス検査を実施するために佐賀県及び市町と契約をされていますか?

- ・契約している ・契約していない ・契約しているかどうか分からない

Q2.先生のご専門をお聞かせください。

- ・肝臓専門医です ・肝臓専門医ではありません(ご専門の診療科:)

Q3.ウイルス性肝炎の患者さんは何名程度、貴院に通院していらっしゃいますか。

- B 型肝炎 ・いません ・数名 ・10 名程度 ・10 名以上 ・分かりません
C 型肝炎 ・いません ・数名 ・10 名程度 ・10 名以上 ・分かりません

Q4.肝炎ウイルスに感染した患者さんを診察した場合、専門医療機関へ紹介されていますか。

- ・必ず紹介します ・症状や場合によって紹介します ・紹介しません

Q5.肝炎ウイルスに感染しているにもかかわらず、専門医療機関に紹介しない場合の理由について教えてください。

(複数回答可)

- ・患者さんが紹介を断るから(断られる理由をご記載ください))
・紹介先が分からないから ・自院で対応できるから
・今まで紹介しなかったから ・患者さんへの説明や紹介状を書く時間がないから
・治らないと思うから ・治療が不要だと思うから
・強力ネオミノファーゲン C やウルソデオキシコール酸の投与で十分だと思うから
・その他()

Q6. 一般に、先生ご自身が「予後には影響しないので紹介は不要」と考えられる肝炎ウイルス感染者は以下のうちどのような患者さんでしょうか(複数回答可)

- ・肝機能正常 ・高齢者 ・施設入居者 ・認知症患者 ・アルコール依存症
・難治性の他疾患(呼吸器・心疾患・悪性疾患など)を合併
・その他()

Q7. 肝炎ウイルスに感染した患者さんが何歳以下であれば、専門医療機関へ患者さんを紹介しようとお考えになりますか。

- ・60 歳まで ・70 歳まで ・75 歳まで ・80 歳まで ・85 歳まで ・90 歳まで
・年齢にかかわらず紹介する ・その他()

Q8.日常診療から B 型肝炎及び C 型肝炎についてお感じになることを、ご自由にご記載ください。

()

ご協力いただき誠にありがとうございました。回答内容に関しましては、情報収集のみに使わせていただきます。できる限り多くの回答を得るために、未回答の医療機関には、改めてご回答をお願いさせていただきたく存じます。そのため、ご回答されました先生のお名前、医療機関名を必ずご記載ください。

ご回答された先生()医療機関名()